知床世界自然遺産地域の海域管理計画について

H18年度第3回海域WG資料1

◇ 海域管理計画の背景

＜知床の特長＞

- 季節流氷が来遊する北半球の南限で、流氷の影響を受けた豊かな海がある。
- 海と陸とのつながりが顕著。（サケ類の遡上など）
- 多種多様な生物が生息している。（223種の魚類が生息）
- 長い間持続的な形で安定的な漁業活動が営まれてきた。

⇒ こうした世界的にも価値ある自然と人間との良好な関係を維持していくため、
世界自然遺産登録を契機として海域管理計画という形で取りまとめることとした。

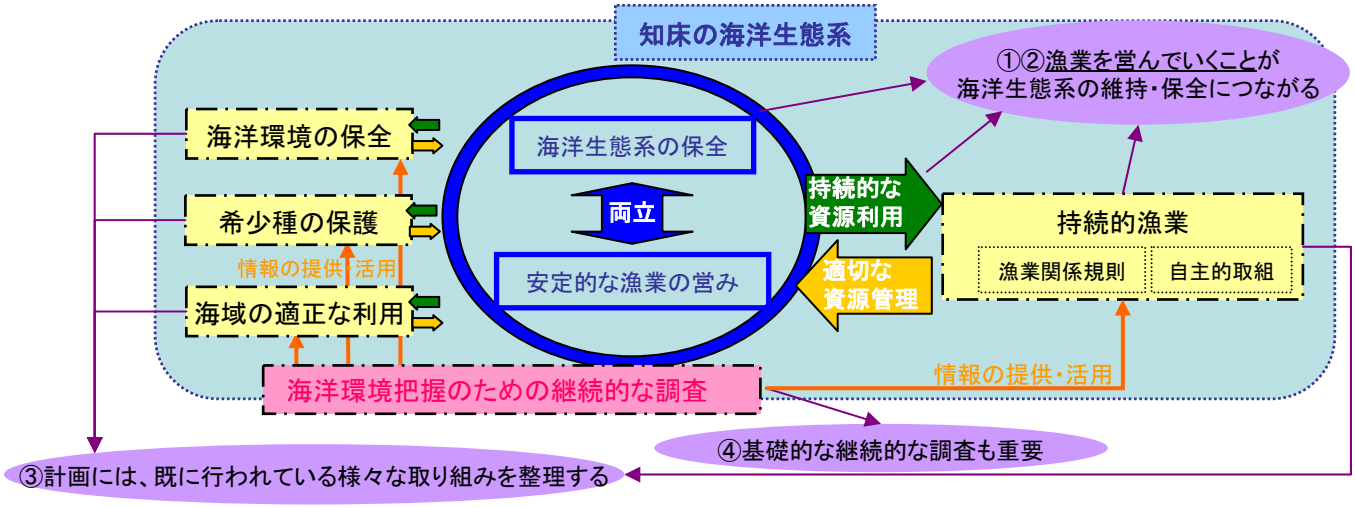
◇ 知床世界自然遺産地域科学委員会　海域ワーキンググループでの検討

海域ワーキンググループ（平成17年7月発足、座長：桜井泰憲北海道大学教授）

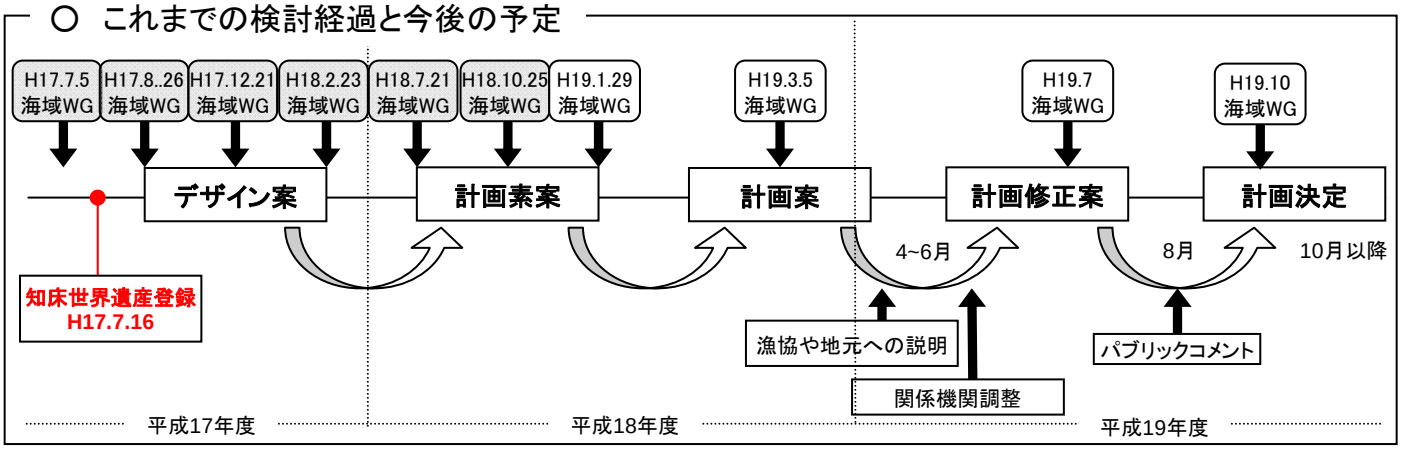
【目　　的】「海域管理計画」策定に当たっての科学的な立場からの助言
【構　　成】委員：学識経験者9名、オブザーバー：関係行政機関、漁協等の関係団体
【事　務　局】北海道、環境省

○ 議論のポイント

① 知床では長い間、持続的な形で漁業が営まれ、海洋生態系が守られてきた。
② これからも漁業が持続的な形で営まれていくことが海洋生態系の維持・保全につながる。
③ 海域管理計画では、安定的な漁業の維持や生態系の保全のために既に行われている様々な取り組みを、わかりやすく整理し説明する。
④ 安定的な漁業の維持のためにも、水温など基礎的な海洋環境を把握するための継続的な調査が重要。　等



○ これまでの検討経過と今後の予定



多利用型統合的海域管理計画素案の概要

◇ 目的・基本方針

＜目　的＞

知床世界自然遺産地域内の海域における海洋環境や海洋生態系の保全と、持続的な水産資源利用による安定的な漁業の営みの両立を目的とする。

＜基本方針＞

「海洋環境や海洋生態系の保全及び漁業関係に関する法規制、並びに海洋レクリエーションに関する自主的ルール及び漁業者の自主的管理を基調とする。」

海洋環境・海洋生態系の保全

↕ **両立**

安定的な漁業の営み

◇ 管理計画素案のポイント

■構成要素ごとに管理の仕組みをわかりやすく記述

・知床の海洋生態系の構成要素（海洋環境、魚介類、海棲哺乳類など）ごとに、現状や様々な取り組み、保護管理の基本的な考え方を整理して記述。

・構成要素の全てを完全に把握するのは不可能なので、各構成要素の中から、特徴的なもの（指標種）を取り上げ、既に行われている様々な取り組みを記述。

【構成要素】<<指標種>>

魚　　介　　類：サケ類（漁業関連規則、漁協の自主的取組など）
　　スケトウダラ（漁業関連規則、ＴＡＣ、漁協の自主的取組など）

海棲哺乳類：トド（漁業法）、アザラシ類（鳥獣保護法）

海鳥・海ワシ類：ケイマフリ（鳥獣保護法）
　　オオワシ・オジロワシ（種の保存法、鳥獣保護法、文化財保護法）等

そ　の　他：自然景観保護（自然公園法）、漂流漂着ゴミ
　　海洋レクリエーション（申し合わせ、利用の心得）等

■継続的な調査の推進

・構成要素の主要なものや基礎的な海洋環境等を継続的に調査し、安定的な漁業の営みと海洋生態系の保全に役立てる。

■管理体制

・関係行政機関（北海道、環境省等）、関係団体（漁業協同組合等）、試験研究機関等が、それぞれ担っている取り組みを今後とも連携しながら推進していく。

◇ 対象海域

「距岸3kmまでの世界自然遺産地域内海域」